

日本—アフリカ 国際共同研究「環境科学」 2023 年度 年次報告書	
<b>研究課題名（和文）</b>	子どもと若者による地域に根ざした WASH（水、トイレ、衛生）モデルの共創
<b>研究課題名（英文）</b>	Co-creation of a community-based Water, Sanitation and Hygiene model with children and youth
<b>日本側研究代表者氏名</b>	山内 太郎
<b>所属・役職</b>	北海道大学 大学院保健科学研究院・教授 環境健康科学研究教育センター・センター長
<b>研究期間</b>	2022 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

## 1. 日本側の研究実施体制

氏名	所属機関・部局・役職	役割
山内 太郎	北海道大学 大学院保健科学研究院 教授 環境健康科学研究教育センター・センター長	研究責任者
佐井 旭	北海道大学 アイヌ・先住民研究センター 助教	共同研究者
ニャンベ・シコポ	北海道大学 アイヌ・先住民研究センター 助教	共同研究者

## 2. 日本側研究チームの研究目標及び計画概要

昨年と同様、プロジェクトメンバー間の月例オンラインミーティングに加え、WP ごとのミーティングを開催した。各 WP 実施やアウトプット創出に向けて、以下の研究目標ならびに計画が設定された。

- 各国の研究チームに対する研究倫理申請の支援
- ワークショップを開催し、各 WP におけるデータ収集ツールやプロセスの検討
- 各調査地の WASH に関するレビュー論文の刊行（WP1）
- パイロット調査の実施、データ収集ツールの改善（WP2）
- 子どもと若者との参加型アクションリサーチ実施に向けた、トレーニング・活動マニュアルの試行（WP3）

- 科学教育支援のためのソーシャルメディア・プラットフォームの構築
- ローカル・グリーン・テクノロジー探求のためのデータ収集ツールならびに研究方法論の検討（WP4）

### 3. 日本側研究チームの実施概要

日本およびザンビアのプロジェクトメンバーは、6月から9月にかけて、ザンビア首都ルサカにおいて、WP2（環境評価）、WP3（WASH トレーニング・活動マニュアル）、および WP4（ローカル・グリーン・テクノロジーの探求）に焦点を当てたパイロット調査とデータ収集を実施した。

Social Learning Lab を開催し、プロジェクト対象 3 か国間の WASH の類似点と相違点を評価した。ザンビアの調査地（カフユエ）を訪れ、政府関係者および地域住民と議論を行った（写真左）。

子どもと若者から構成されたファシリテーターや地域住民と協力して WASH トレーニング・活動マニュアルを試行した。加えて、子どもと若者の参加者と協働し、ローカル・グリーン・テクノロジーの探求をテーマにワークショップを実施した（南アフリカチーム主導）。

2023 年 8 月 14 日から 18 日にかけて、ザンビアのルサカでワークショップを開催した（研究の進捗、研究方法論、およびステークホルダーとの連携）。さらに、ザンビア大学公衆衛生学部にて、CO-CO WASH の調査結果と今後の研究を共有する一般公開講座を開催した（写真中央）。講義には 87 人の学生が対面およびオンラインで参加した。

さらに、国際サニテーション学会（ISSS）と共催して、2023 年 11 月 28 日に CO-CO WASH シンポジウム 2023（オンライン）を開催した（写真右）。本シンポジウムでは、55 人の発表者（口頭ならびにポスター）を含め、90 人以上が参加し、活発な議論を展開した。12 か国（ Bangladesh, Botswana, China, Ghana, India, Indonesia, Japan, Kenya, South Africa, Spain, America, Zambia）から参加者が集まり、盛会となった。本シンポジウムでは、「WASH と衛生行動の変容：WASH 改善に向けた地域社会との協働」というテーマについて、プロジェクトメンバー国（ Botswana, South Africa, Zambia）がパネルディスカッションを行った。最後に、12 月には、プロジェクトメンバーおよびファシリテーターを対象に、WASH トレーニング・活動マニュアルのワークショップ（オンライン）を実施した（日本チーム主導）。



写真左： ザンビア・カフユエにおけるステークホルダーとのミーティング

写真中央： ザンビア大学・公衆衛生学部における公開講座

写真右： CO-CO WASH シンポジウムのチラシ（フライヤー）